

# THE PERSON

# 萩原朔美

## [profile]

1946年東京生まれ。映像作家、エッセイスト。母は小説家萩原葉子、母方の祖父は萩原朔太郎。'69年寺山修司主宰の演劇実験室「天井桟敷」の立ち上げに参加、演出家として活躍。'75年月刊誌「ピククリハウス」をパルコ出版より創刊し、初代編集長を務める。著書に『演劇実験室・天井桟敷の人々』（2000年）、『毎日が冒険』（'02年）、『死んだら何を書いてもいいわ』（'08年）、『劇的な人生こそ真実』（'10年）他多数。多摩美術大学教授。'16年4月より現職。

## 「言葉」が新しい感情を生み出す

小学生の時、敷島にある祖父・朔太郎の詩碑・帰郷の除幕式で白い布を引いた。イベントや朔太郎忌がある度、母・葉子さんに手を引かれ訪れる前橋では、広瀬川に浮かぶ屋形船の上で、夏なら浴衣に着替えた詩人達が酒を酌み交わしていた。「僕にとって前橋は川のある街。世界中の主の観光地は川とともにあります」

そんな前橋を朔美さんは、言葉と出会える街にしたいと考えている。「文学館の壁という壁に詩が貼り出され、通りの電信柱に街の人達の短歌や俳句が飾られたらいいよね」

詩や文学は苦手だったという朔美さんだが、初めての出版社からの原稿依頼には、すらすら書けた。「あれは僕が風邪をひく度、叔母が家にあつた世界文学全集を読み聞かせてくれたおかげ。僕の中にたまっていた言葉がある日あふれるように文章になった。そんな体験を前橋の子ども達にも文学館が仕掛けていきたい」

先日、朔太郎の詩を読み返し、「白」という言葉の多さに気づいたという。「考えてみたら、ベッドは白、看護師も白、父親も白。あそこ、病室もあつたわけだし、人が亡くなることもあつたでしょう。白っていう心持は死に通じるのかなって感じたの」詩は苦手、朔太郎はわかりずらいと言いながら、朔太郎の生家を「あそこ」とよび、祖父の詩に死の色を見出すことは朔美さんにしかできない。朔美さんにしか生まれぬ感情が、前橋文学館に息づきはじめた。

写真 平山素也  
文 中村ひろみ



資格の学校

中央カレッジグループ

# TAC 群馬校

TACは多くの方に選ばれています。

- ・勉強しやすい学習環境
- ・広々とした個別DVDブース
- ・無料駐車場完備
- ・毎年改定されるオリジナル教材
- ・短期合格カリキュラム



## TAC 社会保険労務士講座

2017年  
合格目標

今が学習を始めるチャンス!早割キャンペーン実施中!

## 総合本科生Basic

ベーシック

7・8・9・10月  
開講!

最大¥31,000 割引!

2016年  
6月1日(水)~9月30日(金)

	通常受講料(8%税込)	キャンペーン受講料(8%税込)		通常受講料(8%税込)	キャンペーン受講料(8%税込)
教室講座	¥211,000	→ ¥180,000	音声DL通信講座	¥211,000	→ ¥180,000
個別DVD講座	¥211,000	→ ¥180,000	Web+音声DL通信講座	¥221,000	→ ¥190,000
Web通信講座	¥211,000	→ ¥180,000	DVD通信講座	¥231,000	→ ¥201,000

8/28(日) 社会保険労務士 本試験 頑張れ受験生!!

TACは受験生の皆さんを応援しています

お申込み・無料体験受講随時受付中! 参加者に入会金1万円免除券進呈!!

●JR新前橋駅東口より徒歩3分



資格の学校

中央カレッジグループ

# TAC 群馬校

〒371-0843 前橋市新前橋町17-36

☎0120-16-3030

URL: <http://www.tac-maebashi.com/>

受付時間 月~金 9:30~21:30

土・日・祝 9:30~18:30